

児童発達支援

(別紙3)

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こどもみらいサポートにちにちそう(児童発達支援)		
○保護者評価実施期間	令和7年年8月1日 ~ 令和8年8月1日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	2	(回答者数) 2
○従業者評価実施期間	令和7年年8月1日 ~ 令和8年8月1日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年9月14日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	多職種(看護師・作業療法士・保育士・児発管等)が連携し、医療的ケアやリハビリの視点を活かした、一人ひとりに合わせた支援を行っている。	一人ひとりに合わせ、遊びにリハビリの視点を取り入れている。多職種で情報共有し、コミュニケーション手段や自助具を工夫しながら「できた」「やってみたい」を大切にした支援を行っている。	事業所の受け入れ体制や専門性を活かし、地域における潜在的なニーズを把握するとともに、事業所の役割や支援内容を積極的に発信していく。医療的ケア児や重症心身障がい児とそのご家族が必要な支援につながるよう、地域との連携や広報活動を強化し、支援の輪を広げていく。
2	児童の安心・安全を最優先に、経験豊富な看護師を法定基準を上回る体制で配置し、医療的ケア児とご家族が安心できる支援環境を整えている。	支援の質の向上を図るため、他施設への積極的な見学や研修会への参加を行い、職員の知識・技術の向上に努めている。	安定した医療的ケアと支援の継続に向け、職員向けの勉強会を定期的に開催し、専門的な知識・技術の向上を図る。また、他施設との連携による医療的ケアに関する情報交換会を開催し、支援方法や事例を共有する。さらに、異常や事故の早期発見・情報共有につながる仕組みを整え、医療機器等のテクノロジーの導入も検討し、安全で質の高い支援体制の充実を図っていく。
3	未就学児一人ひとりの「やってみたい」を尊重し、安心して過ごせる環境を整えている。基本的欲求や意思の表出に寄り添い、遊びや療育に日常生活動作につながるリハビリの視点を取り入れ、多職種で支援している。	「できること」を増やすだけでなく、「やってみたい」「伝えたい」「自分で選びたい」という気持ちを大切に、遊びや生活の中で主体的に経験できる機会を増やしている。	一人ひとりの「やってみたい」「伝えたい」をさらに引き出せるよう、遊びや日常生活の中で選択・自己表現の機会を増やしていく。多職種で発達や生活の様子を共有し、日常生活動作につながる遊びや療育を工夫するとともに、家庭や関係機関との連携を深め、成長や就学を見据えた支援の充実を図っていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	現在、保護者会等の交流会の開催やきょうだい児が交流する機会が十分ではない。	医療的ケア児の体調面や感染症への配慮、職員の勤務体制等の両立等から、保護者参加型の行事や保護者同士の交流の機会を十分に設けられていない。	今後、保護者同士やきょうだい児がつながり、交流できる機会を設け、安全面に配慮しながら、家族支援の充実につなげていく。
2	利用定員が少なく、同世代の子ども同士で関わる機会や、集団活動を経験する機会が限られている。	医療的ケア児の安全面や一人ひとりの発達・体調に配慮した支援を行う一方、保護者からは「同世代との関わり」や「集団活動を通した社会参加への慣れ」を求める声がある。	少人数の良さを活かしながら、地域の子どもや関係機関との交流、合同での活動等を検討し、同世代との関わりや集団で活動する経験を増やしていく。
3	各種マニュアルや安全計画は整備されているが、訓練の実施や保護者への周知・報告が十分ではない。	避難・緊急時・防犯・感染症等を想定した訓練の機会が少なく、訓練内容や安全対策について保護者へ伝える機会も不足している。	定期的に避難・緊急時等を想定した訓練を実施し、職員間で振り返りと情報共有を行う。訓練内容や安全対策、日頃の支援について保護者へ分かりやすく情報発信・報告するとともに、これらを通して、保護者との連携・信頼関係の構築につなげていく。